

1 今年(H28)の傾向

総評・講評(大問毎に)

【総評】

長文読解2題、和文英訳1題の昨年同様の大問構成であった。

設問数は大問Ⅰが4、大問Ⅱは5、大問Ⅲは2。和訳問題6、下線部説明問題が3、和文英訳が2という内訳であった。文章量は昨年と同程度である。

全て記述問題という点では昨年同様であるが、その中でも和訳問題が6題で全問題の過半数を占める構成であった(昨年度は4題)。その和訳箇所も基本的な英語力を確認する部分となっており、基礎を大事に学習してきた受験生にとっては取り組みやすいものだったであろう。対照的に和文英訳問題はやや難度が高く、直訳調の英語では内容を正しく伝えることが困難で、意識調の英語にするには正確な知識が必要になる。

中学高校で培ったはずの基礎知識を正しく運用する能力と、臨機応変な対応力とをバランスよく確認する問題であった。

【個別分析設問Ⅰ】

計画通りに進まないことと楽観的な見積もりについての文章を読解する問題。出典は Ira Hyman の “Sorry I’m Late, Again”。和訳2題、下線部の具体的内容を日本語で記述する説明問題1題、下線部の理由を日本語で記述する説明問題1題。文章量、難度は標準的。

問1は下線部説明問題。「計画に関する誤信」に相当するのは、第一段落最終文。「3 倍の時間」とある部分は筆者の具体例なので、これを一般化した表現にしてまとめる。

問2は下線部和訳問題。how long all of my articles have taken me to write は全体で I know の目的語になっている。通常は it takes me <時間> to write all of my articles となる構文だが、主語 it の位置に all of my articles が移動し、<時間>が how long となった疑問詞疑問文の構造(実際には I know の目的語なので間接疑問)。後半は what turn out to be silly predictions が make の目的語。what が主語、turn out to be が動詞に相当し、silly predictions が補語。of my future writing time が～predictions を後置修飾している。

問3も下線部和訳問題。主節動詞 guess の現在時制と、that 節内の動詞 could go および went の

過去形との対比に注意。筆者が、過去のことである実験を文書で読み、それを現在視点で考察している文である。guess の目的語内に 2 つの節があり、s·everything [that could go wrong] v·went c·wrong (and then) s·a few more things v·went c·wrong (as well)という構造。前半はの every thing を、could を使って仮定法の含みのある関係節が後置修飾している。

問4は下線部「なぜ人々は仕事を終えることについてそんなに楽観的なのか」という問に対する答えを説明する問題。2点説明する。ひとつ目は、同段落の最後の1文 “So the first problem is …a new estimate.”をまとめればよい。ふたつ目は次の段落の最後の2文 “The same problem…again.” “Our failure is … to happen.”をまとめる。この際、「同じ問題は2度起こることはないだろう」と考える部分が、まさにキーワードの “optimistic”に相当するものだということに気づいたのであれば、文章全体の流れと、出題意図が理解できたと言える。

#### 【個別分析設問Ⅱ】

古典学者の視点と、事実をどのように確認するかについて書かれた文章についての読解問題。出典は Mary R. Lefkowitz の “Ancient History, Modern Myths”。下線部和訳問題4題、下線部の具体的内容を説明する問題1題。文章の長さ、難度、ともに標準的。

問1は下線部和訳問題。I stick with this traditional text が主節。stick with～は「～にこだわる/～を使い続ける」。even though から始まる一つ目の副詞節は、it が主語でこれは this traditional text を指す代名詞。後ろに to 不定詞が控えているが、形式主語の構文ではないので注意。student に関係節が後続。time to learn ～「～を学ぶ時間」。bare はここでは「最低限の」。最後に because から始まる副詞節。deal with ～「～を扱う」。matters を that 節(関係節)が後置修飾している。so…that～構文ではないので注意。

問2は下線部和訳問題。大きな構造は s·The instructor v·had (also) taught o·that ～。目的語である that 節内に、主節と because から始まる従属節とがある。the African origin of Socrates「ソクラテスがアフリカ系の起源をもっていること」。they = classists。S’ had been stolen…「S が盗まれていた」。過去完了で書かれた部分は、数年前に筆者が教えていた学生が卒業した時点を基点にした表現。現在形で書かれた部分は instructor にとっての真理として書かれた部分として認識する。

問3も下線部和訳問題。仮定法過去完了の基本的な構文。挿入句である from A or B の部分は文脈から「A 出身であれ B 出身であれ」と譲歩として訳出する。

問4も下線部和訳問題。この文も仮定法。「S であれば～であろうに」と主語を条件として訳出すると自然な日本語になる。either through～の部分はit isが省略されているが、動詞句のmisinterpret the factsを修飾する副詞節である。

問5は下線部の具体的内容を説明する問題。itの指すものは、この文冒頭のif節の内容である。featureは素直に「特徴」で構わないが、今回は見た目の特徴についての言及であることが文脈からわかるので、「容貌」「顔立ち」としてもよい。

### 【個別分析設問Ⅲ】

下線部の和文英訳が2問という構成は例年通り。出典は松浦弥太郎『僕の好きな男のタイプ』。エッセー形式の文章であり、そのままでは英語に訳しにくい日本文である。文章の趣旨は、情報の洪水に流されることなく自分自身の考え方を堅持することの重要性を訴えるもの。下線部(A)はこの趣旨を述べた部分、下線部(B)は自分自身の考え方を堅持するには読書が良い手段になることを述べた部分である。いずれも複数の文や節をどのように繋げていくかをあらかじめ構成した上で取り組まないと適切な英文が作れない。

下線部(A)を訳す上でのポイントは6つ。

(1)日本文では省略されている主語を考える。下線部(A)を含む段落は読者に向けて語りかけている部分である。その点で一般的な人を指すyouを主語にすることが可能だ(解答例)。他方、文章全体の趣旨から筆者自身の行動原理を述べていると解釈すれば、Iを主語にしてもよいだろう(別解)。

(2)日本文の第1文と第2文の接続を考える。最も単純に考えれば、「考え方を真似しない」「独自の考え方を持つ」「自分なりの考えで応えを出す」を並列させることになる(解答例)。他方、「考え方を真似しない」に対する理由として第2文を置くと解釈することもできる(別解)。

(3)第1文の「真似をする」をどのように訳すか。「真似をする」の直訳としてはimitateやcopyが挙げられるが、「人の何かを真似する」や「考え方を真似しない」の部分は「他人(の考え方)に従う」と解釈してfollowやacceptを用いる方が適切だ。

(4)第1文の「自分がすてきだと思った人の何か」をどう訳すか。連鎖関係代名詞節(先行詞+関係詞+you think+動詞...)を用いる。問題は「何か」をどこまで表現するか。意味の上で重要ではないものとして特に英語として訳さずfollow a person who...としてもよい(解答例)が、「人の何らかの特

徴」と考えて some characteristic (some+単数名詞で「何らかの...」)と補ってもよいだろう(別解)。

(5)第2文の「自分なりの考えで答えを出したい」をどう訳すか。単純に work out an answer...for yourself としてもよい(解答例)。他方、文章全体の趣旨からこの部分の意味の中心になるのは「自分なりに考える」と捉え、「答えを出す」は「自分なりに考え」た結果として to 不定詞で表現してもよい(別解)。こうすると、第1文から言われていた旧情報(自分なりに考える)を述語動詞にして、新情報を結果の不定詞として最後に出すことができる(文末焦点)。

(6)第2文の「拙くても」をどう訳すか。in a poor manner という前置詞句を作る(解答例)か、「答えを出すのには私は能力不足だが」のように節構造に展開する(別解)。

下線部(B)を訳す上でのポイントは6つ。

(1)文の区切りをどうするか。日本文通りに1文で書こうとするのはやや困難。別解のように前半を分詞構文で表現し、「だんだん頭が覚醒する感じになる」という主節をそれらの帰結として文末に置く方法もあるが、2つの文に区切って表現する方が組み立てやすい(解答例)。まとめとしては以下のとおり。[part 1]:「考えごとをしたくなかったときに親しみのある本を開き」。[part 2]:「集中はしているけれど、物語に没入せずに距離感をもった状態で読み進めていると」。[part 3]:「だんだん頭が覚醒する感じになってくる」。最もシンプルに考えると[part 1]と[part 2]を並列的にまとめ、その帰結として[part 3]を置く方法が考えられる。しかし、文の展開上の「変化」(読み進めると...だんだん頭が覚醒する)を意識すると、[part 2]と[part 3]を連動させたほうが元の文意に即した英文になる。

(2)「考えごとをする」をどう訳すか。feel like thinking でも良い(別解)が、「没入」との対比を意識すると文意が明確になる(解答例)。「考えることに専念する」devote oneself to thinkingと「物語に没入する」be absorbed in the story で対比を作る。

(3)「集中はしているけれど」をどのように訳すか。この部分を although などで節として独立させると構文が複雑になる上に、最後の主節との関連性がわかりづらくなる。「...けれど」にこだわらずに、「本を読み進めることに集中するにつれて」と解釈し直すと構文がすっきりする。

(4)「距離感をもった状態で」をどのように訳すか。「客観的に本を読む」と捉えて副詞 objectively で表現できる(解答例)が、「距離」の語を生かして keep a certain distance を用いてもよい(別解)。

(5)「だんだん頭が覚醒する」をどのように訳すか。「変化」を意識して比較級表現を用いる。文章全体の趣旨から think を軸にした表現にするのが適切なので think more clearly としたり(解答例)、feel my head clearer (別解)とする。

(6)「感じになってきます」をどのように訳すか。本来であればこのような「感じ」は英訳に反映させなくてもよさそうだが、下線部(B)の直後でこの部分の内容を具体的に言い換えた上で、「そんな感じです」と「感じ」を強調して出している。それゆえ、この論述展開と繋がるように下線部(B)でも「感じ」に対応する表現を出しておきたい。

② 合否ライン(予想)※他の教科が合格ラインをとったときの得点(%)予想

【文系】

経済学部	65%
------	-----

【理系】

保健／看護	65%		
〃 検査	65%		
〃 放射線	65%		

③ 来年受験する生徒へのアドバイス

毎年、英語らしい英語を日本語で記述する(和訳・説明)問題、及び日本語らしい日本語を英語に訳す問題が出題されている。大問構成、出題形式が多少違うとは言え、前期入試も含めた東北大学の過去問をじっくり研究することが一番である。特に長めの英文を日本語に訳すトレーニングは、早い時期から取り組んでおきたい。英語として構文や大意がわかっても、自然な日本語にするのが困難な英文を攻略するには、英語に関する知識は当然として、様々な日本語表現にも習熟しておく必要があるからである。また今回は、間接疑問、関係節、仮定法等、英文法として中学高校で時間をかけて練習してきているはずの、基本的な構文/構造を確認する問題が目立った。徹頭徹尾、基礎・基本を重視して学習して欲しいという、大学からのメッセージと受け取ってもよかろう。